

# ふるさと じまん

わたしのお気に入り

長野県 佐久市



AIから離れ、  
自然と伝統を  
辿ってみよう

今井芳明  
(昭和43年卒)



1 佐久平駅

## はじめに

大学に通う頃、列車の中などで「どこの出身ですか」と聞かれると「軽井沢の隣で、佐久というところですよ」と、かならず軽井沢を仲介役にして佐久を紹介したものだ。最近は直接「佐久市ですよ」という。人口が10万人を超えたり、足りなくなったりしている田舎町である。1998年長野冬季オリンピックを機に開通した新幹線「佐久平駅」のおかげで、面倒な説明が要らなくなった。ちなみにこの長野新幹線の駅の中で、今までの信越線の駅を使わず、全く新しい駅としてできたのは佐久平駅のみである。

今回「ふるさとじまん」の原稿依頼を受け、何を書こうかと考えてみたが、普通の観光地紹介とか、歴史探訪は、私よりインターネットのほうがずっと詳しく紹介しているので、そちらを見ていただくことにして、佐久の人間しか知らない「佐久」をじまんしようと思う。

## じまんできること

なんといっても自然の壮大さである。北側に殿と構えた浅間山が控え、南には八ヶ岳連峰と蓼科山が連なっている。あまり知られていないが、西には荒船山、それと八ヶ岳の間には、現天皇陛下が皇太子時代に登った茂来山（もらいさん）も美しい姿を見せる。それらをつなぐように町の中央を千曲川が流れ、文句のつけようがない

ほどに「自然」を感じる。この自然が、住民の気性、気候や食に大きく影響している。細かいことだが、噴煙を上げている浅間山を見て「ああ、あれが浅間山だ」とほとんどの人達が納得しているようだが、実は浅間山という名の山はない。見えている山は、左が黒斑山、中央が剣ヶ峰、右の大きな台形の山が前掛山、その後ろで今噴煙を上げているのが釜山で、この

2



2 浅間山



3 バルーンフェスティバル

4つの山を総称して浅間山という。八ヶ岳と同じである。この浅間山が北の新潟から流れてくる雪雲を遮ってくれることにより、日本でも最も日照時間の長い「佐久」を培ってくれ、この気候が世界的にも優秀な牧草の種を生産して世界中の牧場に輸出している。その代わり独特の厳しい寒さももたらしてくれ、寒暖の差が大きく米や果物の味の良さに貢献している。

最近、5月の連休前後に佐久市近郊のホテルが非常に混雑している。連休中に「バルーンフェスティバル」という全国的なバルーン



## 食べる

全国区の食べ物としてわずかながら名を成してきたものを挙げると、1：鯉と鮒、2：ブルーン、3：日本酒だろう。

少し説明すると、まず鯉は「佐久鯉」として長野県内でも名が知られている。海辺に育った人に鯉を勧めると決まって「泥臭いからいや」というが、実際に佐久鯉を食べてもらおうと「おいしい」という。ほかの産地の鯉とどこが違うのか、簡単に説明しよう。鯉は生まれてから食べ頃となる（2～3キロ）までに2年かかる。ほかの産地では2年で2～3キロに育つが、佐久は先ほども言ったように寒いので、2～3キロに育つのに3年かかる。水が冷たいのである。同じ大きさに育つのに1年余分にかかるから、身が絞まっておいしくなるが、1年余分にえさを与えることになるから商売には適さない。特にしばらく冷蔵庫で熟成した刺身や塩焼きがお勧めである。

鯉に似た魚に鮒がある。6月頃、大人の鮒のオスとメスを田んぼに放す。この鮒が卵を産んで、



4 佐久鯉  
5 鯉料理

ンの大会があるためかと思っていたのだが、宿泊客のほとんどが山菜採りのために都会から来たお客さんだと聞いて、びっくりした。私のように80代に入った人でも、足に不安のない人なら蓼科山の登山がおすすめである。2,550メートルの山だが、大河原峠の駐車場から登れば500メートルで頂上に着くし、途中と頂上に山小屋があり、広い頂上からすぐ近くに八ヶ

岳、北、南、中央の3つの日本アルプス、浅間山、富士山、木曾御嶽山がきれいに見渡せる。

さらに、佐久は安全な地域でもある。台風が来ても佐久に到達するまでに、いくつもの山や谷にぶつかってくるためか、勢いが弱まって大きな被害にならない。また地震については地域内に活断層がないためか、大きな地震の記憶がない。



6 ブルーン 7 酒蔵



田んぼの中で小鮎が育つ。稲刈りの前9月頃になるとこの小鮎を収穫する。5センチ前後のこの鮎を生きたまま鍋にかけ醤油と砂糖を入れて加熱する。鮎が外に飛び出さないように、ふたをして甘露煮にする。これも佐久地方独特の料理で、地元の人間にとっては、なくてはならない秋の味覚である。

2つ目のブルーンは気候の関係で他の土地ではうまく実らず、佐久の特産になっているが、朝昼の寒暖差が大きいので、ほかの果物、桃、リンゴ、ブドウ等も甘みと酸味が適度に重なっておいしい。

3つ目は日本酒である。人口10

万の佐久市だが、ここに造り酒屋が8軒ある。これは全国的にも珍しい。昔は全国の日本酒品評会と云えばお隣の新潟県産の酒の独壇場だったが、最近では長野県の酒、佐久の酒が入賞することが普通になった。この造り酒屋を巡り歩いて、それぞれの味を飲み比べてみるのも粋な試みである。

### 歩く

はじめに紹介した浅間山、ハヶ岳、蓼科山、茂来山、荒船山は登山には手ごろの山なので、体力に合わせて登ってみるのも楽しい。あまり観光案内には登場しない

が、全部で69の宿場があった旧中山道の宿場跡が佐久市内に6カ所ある。茂田井宿、岩村田宿、塩名田宿、望月宿、八幡宿、小田井宿である。それぞれが今も昔の面影を残していて、時間に余裕のある方には、歩いて巡ってほしい。また宿屋が現在も営業している宿場もあるので、利用したらさらに素晴らしい「旅」になるだろう。歩いて佐久市のすばらしさを堪能していただきたい。深呼吸したくなる佐久の空気を胸いっぱい吸って旅をしたら、全国でトップクラスを誇る長寿市佐久市民と同じ健康長寿を保証されること請け合いです。

以上、私の独断と偏見で、佐久市を紹介したが、少しでも参考にさせていただいたら幸いです。

※写真は佐久市観光協会より提供



8 ハヶ岳  
9 荒船山

